

2026年度 長岡大学シラバス

授業科目名	日本語Ⅲ-1 (JapaneseⅢ-1)					担当教員	村越 真紀 (ムラコシ マキ)	
2020-23年度 入学者(20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	資格対応科目／知識定着・確認 型 AL
	2011-0-31-022	教養(留 学生科目)	必修	1単位	3年次	前期		
2024-26年度 入学者(24K-26K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	資格対応科目／知識定着・確認 型 AL
	2411-0-31-020	教養(留 学生科目)	必修	1単位	3年次	前期		

① 授業のねらい・概要						
日本語能力試験(JLPT)N1に合格することを目指す。 卒業論文やレポートを書くために必要となる読解力と作文力の養成に力を入れる。 N1レベルの語彙を習得する。						
② ディプロマ・ポリシーとの関連						
職業人として通用する能力、コミュニケーション能力						
③ 授業の進め方・指示事項						
状況によって、試験のやり方が変わる。詳しいことは試験の前に説明する。 毎回、授業の最後に、出席確認を兼ねた小テストを行う。宿題になることもある。 授業の前：次の授業にそなえて準備しておくこと。 授業の後：授業の内容を確認すること。 教室では、母語や英語を使わず、日本語で話すこと。 授業はすべて日本語で行う。						
④ 関連科目・履修しておくべき科目と履修に望ましい予備知識・技能						
日本事情1、日本事情2、日本語Ⅰ-1、日本語Ⅰ-2、日本語Ⅱ-1、日本語Ⅱ-2を履修しておくことが望ましい。						
⑤ テキスト(教科書)※授業で使用する。						
福岡理恵子他(2011)『新完全マスター読解 日本語能力試験N1』スリーエーネットワーク						
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。						
友松悦子他(2010年)『どなたときどう使う日本語表現文型辞典』アルク 二通信子、佐藤不二子(2020年)『新訂版留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク 日本語能力試験問題研究会(2011年)『日本語能力試験直前対策 N1 文字・語彙・文法』国書刊行会 伊能 裕見他(2011年)『新完全マスター語彙 日本語能力試験N1』スリーエーネットワーク ABK 財団法人 アジア学生文化協会(2014年)『TRY! 日本語能力試験 N1 文法から伸ばす日本語』アスク						
⑦ 担当教員からのメッセージ(昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等)						
積極的に授業に参加してください。 授業時間以外にも勉強してください。						
⑧ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安						
(1)日本語能力試験(JLPT)N1レベルの読解や語彙の問題が、授業でやった範囲内であれば90%以上得点できた。 (2)身近な社会問題に対し、自分の意見(理由も含めて)を準備し、原稿を見ずに流暢に発表できた。 (3)身近な社会問題に対し、ネイティブチェックが無くても、自分の意見(理由も含めて)を適切な構成で800~1000字にまとめ、おおよそ意味が通るように書けた。						
⑨ ルーブリック						
評価基準		S	A	B	C	D
評価項目		到達目標を越えた レベルを達成して いる	到達目標を達成し ている	到達目標達成には やや努力を要する	到達目標達成には 努力を要する	到達目標達成には 相当の努力を要す る
(1)	日本語能力 試験(JLPT) N1レベルの 読解や語彙 の問題が解 ける。	授業でやった範囲 を超えて、N1レベル の読解等の問題で 80%以上得点でき た。	授業でやった範囲 内のN1レベルの読 解等の問題で、90% 以上得点できた。	授業でやった範囲 内のN1レベルの読 解等の問題で、75~ 89%得点できた。	授業でやった範囲 内のN1レベルの読 解等の問題で、60~ 74%得点できた。	授業でやった範囲 内のN1レベルの読 解等の問題で、60% 以上得点できなかつ た。
(2)	身近な社会 問題に対し、 自分の意見 を理由も含 めて述べら れる。	身近な社会問題に 対する自分の意見 (理由も含む)を、 原稿を見ずに流暢 に発表でき、質問に も答えられた。	身近な社会問題に 対する自分の意見 (理由も含む)を、 原稿を見ずに流暢 に発表できた。	身近な社会問題に 対する自分の意見 (理由も含む)を、 原稿を見ずに発表 できたが、流暢では なかった。	原稿を見ながらで あれば、身近な社会 問題に対する自分 の意見(理由も含 む)を流暢に発表で きた。	原稿を見ながらで あっても、身近な社 会問題に対する自 分の意見(理由も含 む)を流暢に発表で きなかった。

(3)	身近な社会問題に対する自分の意見を、理由も含めて適切な構成で書ける。	ネイティブチェックが無くても、テーマに対する自分の意見（理由も含む）を、適切な構成で、おおよそ意味が通るように、1000字以上書けた。	ネイティブチェックが無くても、テーマに対する自分の意見（理由も含む）を、適切な構成で、800～1000字にまとめ、おおよそ意味が通るように書けた。	テーマに対する自分の意見（理由も含む）を800～1000字で書けたが、構成や表現についてネイティブチェックを1回受けなければならなかった。	テーマに対する自分の意見（理由も含む）を500～800字で書けたが、構成や表現についてネイティブチェックを1回以上受けなければならなかった。	テーマに対する自分の意見（理由も含む）を500字以上書けず、構成や表現についてもネイティブチェックを2回以上受けなければならなかった。
-----	------------------------------------	---	---	---	--	---

⑩ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法

学習到達目標（評価項目）	定期試験 (レポート含む)	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 取組姿勢・意欲	その他	合計
総合評価割合	45%	10%	15%	15%	15%		100%
(1) 日本語能力試験（JLPT）N1レベルの読解や語彙の問題が解ける。	45%	10%			10%		65%
(2) 身近な社会問題に対し、自分の意見を理由も含めて述べられる。				15%	5%		20%
(3) 身近な社会問題に対する自分の意見を、理由も含めて適切な構成で書ける。			15%				15%
評価項目「その他」詳細							
フィードバックの方法	課題は添削して返す。小テストは採点して返す						

⑪ 授業計画と学習課題

回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）	
1	オリエンテーション 自己紹介（2分間） 春休みについて発表 1. 文章の仕組みを理解する① 1) 対比 例題1～練習2	2分間のやや長い自己紹介を準備しておく。春休みについて発表できるように準備しておく。 テキストを予習しておく。	60分
2	1. 文章の仕組みを理解する② 1) 対比 練習2～練習4 2) 言い換え 例題2	前の週の授業内容を復習しておく。前の週に指示されたところを予習しておく。 スピーチ1の準備をしておく。	60分
3	1. 文章の仕組みを理解する③ 2) 言い換え 例題2～練習7	前の週の授業内容を復習しておく。前の週に指示されたところを予習しておく。 スピーチ1の準備をしておく。	60分
4	1. 文章の仕組みを理解する④ 2) 言い換え 練習8～10	前の週の授業内容を復習しておく。前の週に指示されたところを予習しておく。 スピーチ1の準備をしておく。	60分
5	1. 文章の仕組みを理解する⑤ 3) 比喩 例題3～練習13	前の週の授業内容を復習しておく。前の週に指示されたところを予習しておく。 スピーチ1の準備をしておく。	60分
6	1. 文章の仕組みを理解する⑥ 3) 比喩 練習14 4) 疑問提示文 例題4～練習15	前の週の授業内容を復習しておく。前の週に指示されたところを予習しておく。 スピーチ1の準備をしておく。	60分
7	1. 文章の仕組みを理解する⑦ 4) 疑問提示文 練習15～17 スピーチ1	前の週の授業内容を復習しておく。前の週に指示されたところを予習しておく。	60分
8	2. 問を解く技術を身に付ける① 1) 指示語を問う 例題5～6、 練習18	前の週の授業内容を復習しておく。前の週に指示されたところを予習しておく。 スピーチ2の準備をしておく。	60分
9	2. 問を解く技術を身に付ける② 1) 指示語を問う 練習19～21	前の週の授業内容を復習しておく。前の週に指示されたところを予習しておく。 スピーチ2の準備をしておく。知識定着・確認型 AL	60分
10	2. 問を解く技術を身に付ける③ 2) 「だれが」「何を」などを問う 例題7、 練習22～23	前の週の授業内容を復習しておく。前の週に指示されたところを予習しておく。 スピーチ2の準備をしておく。	60分
11	2. 問を解く技術を身に付ける④ 2) 「だれが」「何を」などを問う 練習24、25	前の週の授業内容を復習しておく。前の週に指示されたところを予習しておく。 スピーチ発表2の準備をしておく。	60分

	3) 下線部の意味を問う 例題 8		
12	2. 問を解く技術を身に付ける⑤ 3) 下線部の意味を問う 例題 8、 練習 2 6 ~ 2 8	前の週の授業内容を復習しておく。前の週に指示されたところを予習しておく。 スピーチ発表 2 の準備をしておく。	60 分
13	2. 問を解く技術を身に付ける⑥ 3) 下線部の意味を問う 練習 2 9 ~ 3 1	前の週の授業内容を復習しておく。前の週に指示されたところを予習しておく。 スピーチ発表 2 の準備をしておく。	60 分
14	2. 問を解く技術を身に付ける⑦ 4) 理由を問う 例題 9、1 0 練習 3 2 ~ 3 3	前の週の授業内容を復習しておく。前の週に指示されたところを予習しておく。 スピーチ発表 2 の準備をしておく。	60 分
15	2. 問を解く技術を身に付ける⑦ 4) 理由を問う 練習 3 3 ~ 3 5 スピーチ 2	前の週の授業内容を復習しておく。前の週に指示されたところを予習しておく。	60 分
⑫ アクティブラーニングについて			
知識定着・確認型 AL			

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性